

## 共同で未来を切り拓く力を育てたい

川 辺 一 弘 (三重県/伊賀町立拓植大学校教員)

やりたい仕事や読みたい本、少し研究してみたいことがたくさんあります。学校の最低限の仕事のやりくりをして家族との時間も大切にしようと思っている毎日が、あわただしく過ぎていきます。

しかし、それだけに「流されてたまるか」と研究所の機関誌がとどくたびに学生だったころの社会変革への情熱を思い返しながらできるどころから少しづつ研究し行動しています。

いただいた原稿依頼をことわれば楽なのですが研究所の活動にほとんど参加することができない後めたさとせつかくの機会だから最近考えていることをまとめてみようと思ひ引き受けました。(まとめるには字数がすくないですが)

少し自分のことを書きます。ここ6年ほど無認可保育所に子どもを預けたことから保育運動にかかわっており、今年子どもが小学校に入学したので開設2年目で経営が安定しない学童保育所の運営委員長を引き受けています。そんな関係で名古屋市の共同保育所の取り組みには新聞で紹介されたときから、関心をもち、「共同保育所から子育てでコープ」は興味深く読みました。両方とも経営や保育内容等課題は山積みです。研究所の活動で紹介される全国の教訓に学びながら展望を切り開きたいと野心を燃やしています。

現在私は、三重県の教員採用選考試験に合格して、正規教員として中学校で仕事をしています。昨年までは、臨時教員として6年間同じ三重県で教員をしてきました。同じ責任で同じ仕事をしているにもかかわらず、臨時教員は待遇が悪く任用期間が終わると次の仕事が決まるまで収入がなくなる不安定な身分です。これは教育にとっていくつかの点でマイナスであり、働くものの権利を守ることから考えてもほっておくことができないと私は考え、臨時教員制度がもたらす問題を改善し

ていくための組織に加わり運動をはじめました。

臨時教員の組織化だけでは、世論の広がりをつくったり要求実現運動を進めていくには弱いので私たちの組織と運動は、はじめから協力共同をもとめて進めてきました。臨時教員制度がもたらす教育へのマイナス面を明らかにし、この問題の改善とよりよい教育をつくる取り組みで一致できる個人や団体に幅広く呼び掛け組織し運動を進めてきました。研究所の研究や子育て教育にかかわる協同の動きと少し異なるかもしれませんが、この7年間はさまざまな接点をもとめて共同を広げてきました。おかげで教職員組合の重い腰をあげさせ全国的にみても最低水準にあった臨時教員の待遇を大幅に改善させることができました。

共同の輪をひろげなかったらとうてい実現することができなかったでしょう。働くものの権利と教育の道理に照らして正統で切実な要求は多くの世論を味方にするのができたのではないのでしょうか。

今は、私自身が経験している保育運動や臨時教員運動から、目の前にいる生徒たちにどのような学習と学校生活を保障していくべきか考えています。私には、共同保育所や学童保育運動と臨時教員運動で子育てと生活をともにし苦勞もいっしょにしてきた仲間がたくさんいます。その仲間と支え合いながらやっています。ここに共同のすばらしさを感じてきました。単に保育園に預けた親同士という受け身の関係では作り出せなかったものです。

これからの時代を生きていく生徒たちが、消費者として受け身の生き方でなく、創造によって選択肢を広げ、共同して自分たちの暮らしをつくっていくような展望と力を付けていってほしいと思うのです。そのために生徒と共に学ぶ学習を創っていくと模索しています。